

# 編 集 後 記

四月がまた巡ってきました。子ども達の顔は、新しい生活への緊張の中にも、大きくなったという自覚と喜びで輝いて見えます。今までできなかったことや、やらなかったことも、何の抵抗もなく、やりとげてしまう時でもあるのでしょうか。

今月から新連載が始まります。「家庭科教育の男女共修をむかえて」——小学校では以前から男女共に学んでいる家庭科ですが、指導要領の改訂により、中学は昨年度、高校はこの四月から男女必修となりました。このことは、男の子も学ぶ機会を与えられるということだけでなく、今まで学んできた女の子に

とつても、料理・裁縫中心ではなく、人として生きていく生活の基本を考え、「生活者」の目を育てていく良い機会となると思います。現場で家庭科を教えていらっしゃる先生方を中心に、色々な角度からレポートをいただく予定です。

「子育てと夫婦の連携」——昨年は公教育と家庭教育を考えていきましたが、今年は家庭内のことを考えてみようと思っています。子を思わない親はいないと思いますが、夫婦の間でその思いが意外に違いがっていることもあるのではないのでしょうか。家族のつながりが希薄になつたと言われますが、支え合う最小単位は、個人ではなく家族でありたいとも願いつつ、「夫婦の子育て」を考えていきたいと思っています。

(K)

## 幼児の教育

第九十三巻 第四号

(一九九四年四月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

発行 平成六年四月一日

編集兼発行人 本田 和子

発行所 日本幼稚園協会

〒112東京都文京区大塚二―一―

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108東京都港区三田五―一二―

発売所 フレーベル館

〒113東京都文京区本駒込

六一―四一九

☎〇三―五三九五―六六〇四

振替口座 東京九―一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレーベル館にお願いします。